

全国一般 闘争情報	64 2004.7.12
	東京都千代田区 三崎町 3-5-6 造船会館 5F TEL 03-3230-4071 FAX 03-3230-4360

第20回参議院選挙結果について

2004年7月12日

全国一般労働組合

7月11日投票の第20回参議院選挙において、自民党は大きく議席を減らした。また、二大政党への流れのなかで、自民党批判票の多くが野党第一党の民主党に集中した。

自民党の敗北は、とりわけ年金法の強行採決をはじめ社会保障政策の改悪、規制緩和政策のもとで都市と地方、大手と中小、正規雇用と非正規雇用などあらゆる分野での格差の拡大、さらには平和憲法をないがしろにしてのイラクへの自衛隊派兵と多国籍軍への参加など暴走政治への批判の高まりの結果といえる。不誠実で強引な政治を続けてきたことに対して国民の厳しい審判が下されたものである。

民主党は、昨年秋の衆議院選挙に続いて比例代表で第一党になり、また、選挙区においても、複数区で順調に議席を伸ばすとともに、1人区において9議席を獲得するという成果をあげた。また、社会民主党も自民・民主二大政党の谷間にありながらも、イラクへの自衛隊派兵・多国籍軍への参加に反対し、平和憲法改悪反対を明確にし、年金法をはじめ社会保障政策の充実を訴え現有2議席の確保をしてきた。

全国一般は、社民党の私鉄総連組織内候補である淵上貞雄氏および福島瑞穂氏、そして連合推薦である民主党の高嶋良充氏（自治労）、那谷屋正義氏（日教組）を推薦し、比例選挙を取り組み、総力をあげて取り組んできた。その結果、推薦候補全員の当選を勝ち取ることができた。また、選挙区選挙でも労働者の立場にたつ候補者の当選に向け、各地方本部を軸に取り組んできた。

今次参議院選挙は、年金制度改革、イラクにおける多国籍軍への自衛隊派遣と憲法問題、小泉構造改革の光と影、とりわけ競争優先主義にたつ景気政策と雇用確保、などが争点として戦われた選挙戦において政権与党の自民党が敗北したことは、これらに対して国民が大きな怒りと不満を明確にしたことに他ならない。

全国一般は、この選挙結果に示された民意を反映する国会運営を求めると共に、社会保障制度、景気・雇用政策、戦争できる国づくりと憲法改悪反対をはじめ、働くものの生活改善に向けて一層の取り組みを強化していく。

以上